

令和 7 年 3 月 19 日

## 令和 6 年度 第 2 回物流環境対策委員会を開催 ～ 第 1 回モーダルシフト優良事業者大賞表彰 大賞受賞 株式会社 コクヨロジテムによる講演会を開催 ～

（一社）日本物流団体連合会（物流連）は、3 月 13 日（木）、全日通霞が関ビル（千代田区霞が関）において、令和 6 年度 第 2 回物流環境対策委員会（委員長：日本貨物鉄道株式会社 取締役兼常務執行役員 経営統括本部長 篠部武嗣 氏）を開催しました。

「物流環境対策委員会」は、物流の低炭素・脱炭素化や効率的な輸送システムの構築など、物流分野の環境対策の促進を目的として、諸課題の検討や情報提供を行っています。また、優良事業者・優良事例の表彰等を通じ、環境対策の普及促進に取り組んでいます。

第一部は、物流連「第 1 回モーダルシフト優良事業者大賞表彰」大賞（以下、大賞）を受賞された株式会社コクヨロジテムを講師に招き、「『物流 2024 年問題』への対策とモーダルシフト推進」と題して講演会を開催し、対面・Web 合わせて 36 名が参加しました。代表取締役社長の松浦鉄男氏が講師を務め、大賞を受賞した、千葉県→佐賀県の船舶へのモーダルシフトの背景から話を進め、関連する様々の取り組みや、今後について話を展開されました。

まず背景として、「早く安く、確実に届ける」という従来当たり前だった前提が、もはや当たり前ではない価値を持ち出しており、トラックにこだわらない輸送手段を選択することが必要となっていること、一方、モーダルシフト実現のためには、配送リードタイム延長、バラ積からパレット荷役への転換や、オフィス家具の特性としての年間・週間の繁閑格差調整といった対応が、関係各社を含めて必要となること、それらを可能としたのは、同社の、ホワイト物流推進運動参画（2019 年）や「2024 年問題対策チーム」組成（2022 年）等の早めの取り組みだった、というように、一連のストーリーとして話されました。

またパレット輸送推進について、従来は、多様なサイズ・形状の貨物をバラ積で効率良く積載することが価値とされていたものを転換し、パレタイズスキルの社内認定制度の設定、現在 18 種類あるパレットサイズの将来的な 3 種類程度への集約や、製品の製造段階からパレット輸送を推進していくことなど、今後の取り組みについても触れられました。

講演後には活発な質疑が交わされ、2024 年問題への肌感覚については、風向きが変化した感触はなく、むしろ労働時間が更に短くなる可能性もあり、将来を見据えてモーダルシフト、パレット輸送

やIT化を一層進める必要性について言及されました。またCO<sub>2</sub>削減については、積極的な企業では、排出量削減の証明書類をリクエストされることが増えてくるであろうとの見通しを示されました。

第二部の委員会では、物流環境対策委員会の令和6年度活動報告と、令和7年度活動計画について審議が行われ、「物流環境大賞」や「モーダルシフト優良事業者大賞表彰」等の更なる充実を含め、原案通り承認されました。

今後も本委員会の活動を通じて、物流業界全体での環境負荷低減の取り組みを推進してまいります。

事務局 山名



講師のコクヨロジテム 松浦 氏



委員会で議事を進める篠部委員長



講演会全景